

授 業 要 項

令和2年度

科目名	統計学				担当者	黒石 哲生			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	基礎医学統計学を通して医療の場における統計学的判断とは何か、EBMとは何かを学び、将来、臨床の場における診療指針などに客観的、統計的判断力をもって臨めるような素養を身につけること。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 ExcelとRによるデータファイルの作成	ExcelやRをPCにインストールし、その基本的使用法を知るとともに、データファイルの作成、入力、保存の仕方を学ぶ。	黒石 哲生
	2 近代医学統計学の基本概念	統計学の歴史と概念について学び、近代統計学の基本概念である母集団と標本について学ぶ。	黒石 哲生
	3 データの表現	基本統計量の概念と計算法、ヒストグラムなど要約する代表値やデータの視覚化などについて学ぶ。	黒石 哲生
	4 母集団とサンプル	確率の概念と計算、推定・検定の概念を学ぶ。	黒石 哲生
	5 比率の比較	比率に特化した2つのサンプルの比較を検定と推定について学ぶ。	黒石 哲生
	6 質問紙調査	リハビリテーションでは健康の保持、増進を目指しますが、それを調べる方法として質問紙調査法について学ぶ。	黒石 哲生
	7 平均の比較	量的なサンプルの比較を検定、推定について学ぶ。	黒石 哲生
	8 相関と回帰の概念	2つの量的関連性について、相関と回帰の概念と計算法を学ぶ。	黒石 哲生
	9 保健統計学の表現と現状	人の保健事象をしるには、更に多要因の関連を調べる必要がある。その導入として分散分析、重回帰分析について概念を学ぶ。	黒石 哲生
授業形態	講義、課題研究		
教科書	柳川堯ほか著「新 看護・リハビリ・福祉のためのエクセルとRを使った統計学」近代科学社		
参考書	神田善伸著「みんなのEBMと臨床研究」江南堂 大森崇ほか著「RCommanderによるデータ解析」共立出版 新谷歩「みんなの医療統計－10日間で基礎理論とEZRを完全マスター！」講談社		
評価方法	期末試験・課題研究(100%)		
授業時間外の学習	講義後は配布資料や講義内容に基づいて各自で課題のレポート報告を求める。		
履修上の留意点	講義と同時に理解を深めるためのパソコンを使って特にExcelとRを利用して医学への応用的例題を計算する。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	小児科学				担当者	野村 恒 濱口 典子			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	小児のリハビリテーションを行う際に必要な知識として、小児の特性と小児に特徴的な疾患について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 成長・発達	小児の特徴は常に成長・発達していることである。特に4か月、10か月、1才6か月、3才での成長と発達について学ぶ。	野村 恒
	2 栄養	母乳栄養の利点と問題点、ビタミンB1、D、K、鉄、亜鉛、葉酸などの欠乏症について学ぶ。	
	3 小児保健	コメディカルの専門職として、母子保健、学校保健、予防接種などについて理解する。	
	4 小児診断学	情報を入手し、その問題リストについて問題点を考える力を養うことが大切である。	
	5 小児のプライマリケア	発熱などの主要症状、脱水症、事故、心肺蘇生、AED、心臓震とう、熱傷、誤飲、熱中症などについて学ぶ。	
	6 先天異常と染色体異常	非侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)、21トリソミー、18トリソミー、13トリソミーなどについて学ぶ。	
	7 先天代謝異常	進歩の著しい先天代謝異常についての最新知識を学ぶ。	
	8 代謝疾患	アシドーシス、アルカローシス、テタニー、肥満、くる病などについて理解する。	
	9 感染症	社会生活に重大な影響を与える感染症も多く、また院内感染の発生もみられていることを理解する。	
	10 新生児・低出生体重児	定義と分類、適応、異常症候、対象疾患(各論)について理解を深める	濱口 典子
	11 内分泌疾患	主要症候、検査、対象疾患(各論)について理解を深める	
	12 免疫不全症	分類、検査・診断、臨床的特徴および治療と対象疾患(各論)について理解を深める	
	13 リウマチ性疾患と類縁疾患	症状、検査、診断、対象疾患(各論)について理解を深める	
	14 アレルギー性疾患	診断、検査、治療および対象疾患(各論)について理解を深める	
	15 呼吸器疾患	症状と病態生理、検査・診断、治療および対象疾患(各論)について理解を深める	
	16 循環器疾患	診断、治療原則、対象疾患(各論)について理解を深める	
	17 血液・造血器疾患	病態と治療および対象疾患(各論)について理解を深める	
	18 腫瘍性疾患	病態、診断、治療および対象疾患(各論)について理解を深める	
	19 消化器疾患	症状と病態生理、検査・診断、治療および対象疾患(各論)について理解を深める	
	20 腎・泌尿器疾患	主要症候と鑑別、検査、治療および対象疾患(各論)について理解を深める	
	21 神経疾患	症候、病態、検査および対象疾患(各論)について理解を深める	
	22 筋疾患	分類、症候、検査、治療および対象疾患(各論)について理解を深める	
	23 骨疾患	診断および対象疾患(各論)について理解を深める	
	24 精神疾患	分類、検査、診断および対象疾患(各論)について理解を深める	
授業形態	講義、問題プリント		
教科書	香美祥二 編集:シンプル小児科学. 南江堂		
参考書	鈴木庄亮 監修:シンプル衛生公衆衛生学. 南江堂		
評価方法	期末試験(100%)		
授業時間外の学習	野村:教科書の該当箇所に目を通すなど30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと		
履修上の留意点	野村:他の授業で学んだ内容と関連して理解するように努めること。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	内科学Ⅱ				担当者	内海、眞、長澤 進、神谷 悦功、高橋 宏尚、 小林 慶子、伊藤 陽子、加藤 愛、岡村 菊夫、 垂水 修			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	臨床医学に必要な各分野の基礎的知識についてその病態と治療を中心に学ぶ。 内科各疾患の疫学、病態、診断、治療の基本的な知識について理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 HIV感染症/AIDSについて	本疾患の病態、治療、疫学についてその概要を説明できるとともに社旗的偏見の克服について説明できる	内海 眞
	2 泌尿器	泌尿器科疾患について基礎的知識を深める	岡村 菊雄
	3 消化器	消化器疾患について基礎的知識を深める	高橋 宏尚
	4 総論、学習計画	各項目について基礎医学を中心に理解を深める	長澤 進
	5 各論、病理、内科学について	一般的な基礎知識の習得	
	6 各論の説明とレポート提出	各項目の一般的説明とスライド	
	7 総括問題、過去問の学習	自己採点、総括問題	
	8 血液内科	血液内科疾患の基礎的知識を深める	神谷 悦功
	9 皮膚科総論・褥瘡・熱傷	皮膚の基礎的知識および代表的な皮膚科疾患について理解する	加藤 愛
	10 免疫アレルギー	アレルギー性疾患について基礎的知識を深める	垂水 修
	11 肝臓・胆嚢・膵臓	肝臓・胆嚢・膵臓疾患の基礎的知識を深める	小林 慶子
	12 耳鼻科疾患	耳鼻科疾患についての基礎的知識を深める	伊藤 陽子
授業形態	講義、講読、スライド、パワーポイント使用		
教科書	寺野 彰 総編集:シンプル内科学. 南江堂 大内慰義:標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)老年学. 医学書院 炭山 嘉伸 編:外科学概論. 南江堂		
参考書	大川弥生:よくする介護を实践するICFの理解と活用		
評価方法	レポート・期末試験(100%)		
授業時間外の学習	授業前、授業後に1時間程度の予習、復習をすること 内海:UNAIDSのレポートに目を通してからレポート課題に取り組むこと		
履修上の留意点	長澤:学習量が多いため、必ず予習、復習をする事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	一般臨床医学				担当者	深見 亜也子、鈴木 道太、越川 克己、山田 勝雄、 遠藤 登喜子、志波 幸子、田中 沙智子、 中村 敦子、川瀬 翔太			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	臨床医学に必要な各分野の基礎的知識についてその病態と治療を中心に学び、各疾患の病態、診断、治療の基本的な知識について理解を深める。 一時的吸引(口腔内・鼻腔内・気管内吸引)の目的と適応、方法について学ぶ。 心肺蘇生法及びその他の応急手当の手技を習得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 内分泌外科、代謝学	内分泌外科と代謝学の基本について基礎的知識を深める	深見 亜也子
	2 膠原病	膠原病の基本について基礎的知識を深める	鈴木 道太
	3 外科総論	外科の基礎的知識および代表的な外科疾患について理解する	越川 克己
	4 腹部外科	腹部外科疾患について基礎的知識を深める	越川 克己
	5 胸部外科	胸部外科疾患について基礎的知識を深める	山田 勝雄
	6 乳腺疾患	疫学・病態・診断及び治療について理解を深める	遠藤 登喜子
	7 院内感染	感染対策の基本について基礎的知識を深める	志波 幸子 川瀬 翔太
	8 一時的吸引とは	呼吸器系の解剖生理を想起し、一時的吸引(気管内吸引、口腔・鼻腔吸引)が必要となる対象が理解できる	田中 沙智子
	9 吸引の目的、適応、方法	一時的吸引の適応と方法について理解できる 一時的吸引が必要な対象の思いを考えることができる	
	10 一時的吸引(気管内、口腔内・鼻腔内)の実際(演習)	モデル人形を使用して、一時的吸引(気管内吸引、口腔・鼻腔吸引)が実施できる	
	11 応急手当の必要性	応急手当の必要性について理解し、説明することができる	中村 敦子 川瀬 翔太
	12 心肺蘇生法実技	心肺蘇生法実技(反応、呼吸の確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使用)を実施することができる	
	13 その他の応急手当	異物除去法(催咳・腹部突き上げ法・背部叩打法)止血法(直接圧迫止血法)について理解し、実施することができる	
授業形態	講義 吸引演習 吸引DVD視聴 救急法実技実習		
教科書	炭山嘉伸編:外科学概論, 南江堂 寺野 彰 総編集:シンプル内科学, 南江堂 配布資料あり		
参考書	身につけよう正しい応急手当:名古屋市消防局救急対策室編		
評価方法	期末試験:120点 吸引演習:10点 救急法実技:20点 ※合計150点を100点満点換算して評価する		
授業時間外の学習	授業前後の予習、復習には1時間程度かけ、病態の理解を深めること 青樹:教科書の該当箇所を目を通すなど事前学習を行う。講義後は配布資料や講義内容を元に知識と技術の復習を行う。		
履修上の留意点	吸引、救急法では実技が行える服装で臨むこと 青樹:解剖学・生理学(呼吸器系の構造、機能)で学んだ内容を復習する。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	一般臨床医学				担当者	深見 亜也子、鈴木 道太、越川 克己、山田 勝雄、 遠藤 登喜子、志波 幸子、田中 沙智子、 水野 準也、梅田 雄嗣、塩谷 絵梨			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	臨床医学に必要な各分野の基礎的知識についてその病態と治療を中心に学び、各疾患の病態、診断、治療の基本的な知識について理解を深める。 一時的吸引(口腔内・鼻腔内・気管内吸引)の目的と適応、方法について学ぶ。 心肺蘇生法及びその他の応急手当の手技を習得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 内分泌外科、代謝学	内分泌外科と代謝学の基本について基礎的知識を深める	深見 亜也子
	2 膠原病	膠原病の基本について基礎的知識を深める	鈴木 道太
	3 外科総論	外科の基礎的知識および代表的な外科疾患について理解する	越川 克己
	4 腹部外科	腹部外科疾患について基礎的知識を深める	越川 克己
	5 胸部外科	胸部外科疾患について基礎的知識を深める	山田 勝雄
	6 乳腺疾患	疫学・病態・診断及び治療について理解を深める	遠藤 登喜子
	7 院内感染	感染対策の基本について基礎的知識を深める	志波 幸子 塩谷 絵梨
	8 一時的吸引とは	呼吸器系の解剖生理を想起し、一時的吸引(気管内吸引、口腔・鼻腔吸引)が必要となる対象が理解できる	田中 沙智子
	9 吸引の目的、適応、方法	一時的吸引の適応と方法について理解できる 一時的吸引が必要な対象の思いを考えることができる	
	10 一時的吸引(気管内、口腔内・鼻腔内)の実際(演習)	モデル人形を使用して、一時的吸引(気管内吸引、口腔・鼻腔吸引)が実施できる	
	11 応急手当の必要性	応急手当の必要性について理解し、説明することができる	水野準也 梅田雄嗣
	12 心肺蘇生法実技	心肺蘇生法実技(反応、呼吸の確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使用)を実施することができる	
	13 その他の応急手当	異物除去法(催咳・腹部突き上げ法・背部叩打法)止血法(直接圧迫止血法)について理解し、実施することができる	
授業形態	講義 吸引演習 吸引DVD視聴 救急法実技実習		
教科書	炭山嘉伸編:外科学概論, 南江堂 寺野 彰 総編集:シンプル内科学, 南江堂 配布資料あり		
参考書	身につけよう正しい応急手当:名古屋市消防局救急対策室編		
評価方法	期末試験:120点 吸引演習:10点 救急法実技:20点 ※合計150点を100点満点換算して評価する		
授業時間外の学習	授業前後の予習、復習には1時間程度かけ、病態の理解を深めること 青樹:教科書の該当箇所目を通すなど事前学習を行う。講義後は配布資料や講義内容を元に知識と技術の復習を行う。		
履修上の留意点	吸引、救急法では実技が行える服装で臨むこと 青樹:解剖学・生理学(呼吸器系の構造、機能)で学んだ内容を復習する。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	整形外科科学Ⅱ				担当者	斉藤 究、近藤 史樹、坂東 皓介			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	整形外科科学の疾患の病態と原因を学ぶ。肉体の構造、運動等の理解を深める。整形外科治療学における疾患の概念、病態、診断、治療その対応を学ぶ。解剖学に基づいた運動器の基本知識をまなび、疾病・外傷の理解を深め、知識に基づいた運動器リハビリが行えるように理解を深める。 整形外科科学疾患の中で上・下肢および脊柱における解剖および疾患に関する知識の習得とともに、リハビリテーションの理論的背景を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 【各論】軟部組織損傷	リハビリテーションに必要な肘関節の機能解剖および疾患を説明できる。	
	2 【各論】骨・関節の損傷	リハビリテーションに必要な手関節および手指の機能解剖及び疾患を説明できる。	
	3 【各論】肩関節および上腕	リハビリテーションに必要な肩関節および上腕の機能解剖および疾患を説明できる。	斉藤
	4 【各論】肘関節および前腕	リハビリテーションに必要な肘関節および前腕の機能解剖および疾患を説明できる。	近藤
	5 【各論】手関節と手指	リハビリテーションに必要な手関節と手指の機能解剖及び疾患を説明できる。	坂東
	6 【各論】股関節および大腿	リハビリテーションに必要な股関節および大腿の機能解剖および疾患を説明できる。	近藤
	7 【各論】膝関節および下腿	リハビリテーションに必要な膝関節および下腿の機能解剖および疾患を説明できる。	近藤
	8 【各論】足関節および足部	リハビリテーションに必要な足関節および足部の機能解剖および疾患を説明できる。	近藤
	9 【各論】脊椎・脊髄	リハビリテーションに必要な脊椎・脊髄の機能解剖および疾患を説明できる。	
	10 【各論】骨盤	リハビリテーションに必要な骨盤の機能解剖および疾患を説明できる。	斉藤
	11 【全身性の疾患】骨系統疾患	骨系統疾患に対する整形外科領域の診療への係わりを理解する。	
	12 【全身性の疾患】リウマチとその類似疾患	リウマチとその類似疾患に対する整形外科領域の診療への係わりを理解する。	斉藤
	13 【全身性の疾患】神経疾患・筋疾患	神経疾患・筋疾患に対する整形外科領域の診療への係わりを理解する。	
	14 【全身性の疾患】四肢循環障害	四肢循環障害に対する整形外科領域の診療への係わりを理解する。	
	15 【全身性の疾患】慢性疼痛疾患	慢性疼痛疾患に対する整形外科領域の診療への係わりを理解する。	斉藤
授業形態	講義		
教科書	高橋邦泰, 芳賀信彦 編: 整形外科科学テキスト改訂第4版. 南江堂		
参考書			
評価方法	期末試験(100%)		
授業時間外の学習	授業前には解剖学、運動学および前期に履修した整形外科科学Ⅰの復習をし、授業後には復習を1時間程度行い、知識の定着をはかること		
履修上の留意点	後期は、各論Ⅰ部位別の外傷と疾患の授業を行う。 講義日程は時間割表にて確認すること		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	神経内科学Ⅱ				担当者	奥田 聡、饗場 郁子、齋藤 由扶子、 横川 ゆき、片山 泰司、橋本 里奈、 竹内 裕喜			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	神経症候学ならびに神経内科および脳神経外科領域でみられる疾患・障害の基礎知識について学び、疾患の病態、診断、治療の 基本的な知識について理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 脳血管障害総論(各論)	脳血管障害について、脳領域の機能や高次脳機能障害について説明できる。	奥田 聡
	2 パーキンソン病・パーキンソニズム	パーキンソン病の病態、症候、経過および治療について説明できる。パーキンソニズムの分類とその症候や治療について説明できる。	饗場 郁子
	3 脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の分離を学び、その病理・症候、治療および経過を説明できる	
	4 不随意運動・中枢神経感染症・脱髄性疾患	不随意運動の概念を理解し特徴、原因疾患などについて学ぶ。中枢神経感染症の代表的な疾患について学ぶ。脱髄性疾患の病因・病理、症候および検査所見、治療について説明できる。	齋藤 由扶子
	5 先天性異常・代謝性疾患・中毒性疾患	先天性異常・代謝性疾患・中毒性疾患の分類および代表的疾患について学び、その症候について説明できる	
	6 脳血管障害総論	脳血管障害について、その種類と分類について学ぶ。虚血性脳血管疾患を中心にその症候や治療について説明できる。	片山 泰司
	7 自律神経疾患・脊椎脊髄疾患	自律神経疾患の分類とその症候や経過について知識を深める。脊椎・脊髄疾患の主要な疾患とその症状について学ぶ。	横川 ゆき
	8 心理・知能検査	心理・知能検査について理解し説明することができる	
	9 電気生理学的検査(脳波・筋電図)画像診断・病理的検査法	電気生理学的検査、画像診断、病理的検査について学ぶ。また、その原理や特徴、診断学的意義について説明できる	橋本 里奈
	10 末梢神経疾患	末梢神経疾患の分類と症候について説明できる主要な疾患について、その症状や治療・経過について学ぶ	
	11 脳神経外科総論～検査・治療、頭部外傷、脳腫瘍、他	脳外科総論について学ぶ 脳血管疾患(各論)およびリハビリテーションについて説明できる 脳腫瘍、先天性奇形について、その症候や治療について知識を深める 水頭症、頭部外傷について、その症候や治療について説明できる 脊椎・脊髄腫瘍(各論)・機能的脳神経外科について知識を深める	竹内 裕喜
授業形態	講義		
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学. 医歯薬出版 標準脳神経外科学. 医学書院		
参考書			
評価方法	期末試験(100%)		
授業時間外の学習	授業前には予習をし、授業後には復習を1時間程度することで病態・治療の理解を深め、知識の定着を図る		
履修上の留意点	講義日程は時間割表にて確認すること		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法評価学実習				担当者	大西靖、嵯峨守人、川瀬翔太			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	【1期】学院の講義・実習等で修得した理論と技術をもとに臨床において評価の実際を学ぶ。(16時間) 【2期】患者様を対象に検査・測定が適切に実施でき、理学療法士の立場から患者様の障害像を把握し要を得た報告書の作成ができる。また、患者様と接するにあたり、その人の立場を理解した上で適切に対応できる。(29時間)		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 【1期】評価の実施	脳血管障害患者に対する一般的な個々の評価に関して、評価の目的・意味を考え、不十分な点に気づき、工夫・修正して、適切に実施できる	嵯峨 守人 川瀬 翔太
	2 【1期】記録・報告	評価・観察結果に基づき、理学療法士として適切な表現で記録・報告できる	
	3 【1期】観察・動作分析	検査・測定、観察や動作分析を通して脳血管障害の症例と健常者との違いに気づくことができる	
	4 【1期】リスク管理	リスク管理としてバイタルサインの確認を正しく行うことができる	
	5 【2期】 医療人・社会人としての責任・態度などの基本を身につける	医療人として障害を持った患者様の立場を理解し接することができる。 社会人として、節度を持って責任ある行動をとることができる	大西 靖
	6 【2期】 理学療法士の臨床見学と対象疾患の概要から考察し、必要な評価項目を挙げる	疾患の概要を捉え必要な評価を想定することができる 正常と比較し相違点の観察と分析する観察力を持つ 必要な検査・測定項目を列挙できる	
	7 【2期】 検査・測定の実施と記録ができる	評価にあたり、検査目的と実施方法のオリエンテーションができる 障害に配慮した検査・測定肢位、方法を選択することができる 再現性のある評価測定ができる 検査・測定で得た情報を整理し、個人情報に配慮した記録をとることができる	
	8 【2期】 学習発表	検査測定結果をレポートにまとめることができる 決められた時間内で要を得た発表ができる	
授業形態	見学、実技実習		
教科書	特に規定しない		
参考書	特に規定しない		
評価方法	観察記録・レポート(1期:35% 2期:65%)		
授業時間外の学習	動作分析の記述方法を事前に復習し、限られた時間の中で検査・測定が行えるように、オリエンテーションも含め2時間程度は事前の準備を行うこと。		
履修上の留意点	臨床で行う為、行動、身だしなみに注意する 患者様の体調に配慮し、リスク管理を行い、異状を速やかに報告すること。		
担当者の実務経験	臨床での評価経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	筋骨格系障害理学療法治療学				担当者	深谷 真知子 中川 誠			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	運動器障害の疾患を理解する上で必要な解剖学・生理学・運動学・病理学を確認し、疾患の病態について理解を深める。代表的な疾患の症状・特徴から理学療法の評価および基本的な治療内容を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 炎症、組織損傷と修復・治療過程	筋骨格系障害に頻発する炎症症状について説明できる。 組織損傷後の修復・治癒過程について基礎的事項の知識を振り返り、その特徴を説明できる。	深谷 真知子
	2 疾患各論	骨折の分類、評価、治療法、合併症について説明できる。 代表的な四肢の骨折および軟部組織損傷、脊椎疾患、炎症疾患に対し、その特徴の理解を深める。 各疾患の特徴から理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。 一部実技を通して理学療法の実際に触れる。	
	3 課題発表	文献抄読を通し、筋骨格系障害の理学療法の実際について知見を得る。	
	4 人工関節置換術後の理学療法	股・膝関節の解剖学、運動学が説明でき、人工関節置換術後の理学療法の評価および基本的な治療内容を学ぶ。	中川 誠
	5 膝靱帯損傷後の理学療法	膝関節の解剖学、運動学が説明でき、膝靱帯損傷後の理学療法の評価および基本的な治療内容を学ぶ。	
	6 腰痛に対する理学療法	腰椎の解剖学、運動学が説明でき、腰痛の理学療法の評価および基本的な治療内容を学ぶ。	
授業形態	講義 個人課題(発表) 実技実習		
教科書	特になし		
参考書	適宜紹介		
評価方法	期末試験(90%) 課題発表(10%)		
授業時間外の学習	毎回授業前後には運動学、解剖学の確認等も含め、30分～1時間程度の予習、復習をすること		
履修上の留意点	実技実習を行う際には動きやすい服装で臨む。文献抄読は、発表時間を守り、要を得たレジュメを作成すること。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	内部障害理学療法治療学				担当者	中村 敦子 川瀬 翔太			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	内部障害のなかで多数を占める呼吸・循環系を中心に解剖学、生理学、運動学を基本とともに各疾患の特徴・評価について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 呼吸理学療法 総論	呼吸の概念、呼吸理学療法の必要性や対象について理解し、説明できる。	中村 敦子
	2 呼吸器系の解剖学・運動学	呼吸器系の構造を理解し、体表から触診することができる。呼吸運動について理解し、説明できる。	
	3 呼吸器系の生理学、臨床検査データ	換気とガス交換、動脈血液ガス、スパイロメトリ、これらから臨床病態を推測することができる。	
	4 呼吸不全の病態と呼吸器疾患	呼吸不全の定義、酸素化不全と換気不全の病態、呼吸不全患者に対する呼吸理学療法について理解し、説明できる。	
	5 呼吸理学療法評価:医療面接、フィジカルアセスメント	医療面接、フィジカルアセスメント(視診、触診、聴診、打診)から問題点を抽出する過程を理解する。	
	6 呼吸理学療法評価:その他の評価	運動耐容能、筋力、ADL評価、QOL評価、栄養状態、X線の見方など、呼吸理学療法に必要な評価について理解する。	
	7 症例検討(呼吸器疾患)	症例を利用して評価と解釈ができる。	
	8 心臓リハビリテーションの概要	心臓リハビリテーションの意義・目的を理解し、説明できる。	
	9 循環器系の基礎	心臓、血管系の構造と機能を理解し、説明できる。	
	10 運動時の身体反応	酸素運搬システム、運動時の身体反応について理解し説明できる。	
	11 心不全、虚血性心疾患、大血管疾患	各疾患の病態について理解し、説明できる。	
	12 循環器疾患におけるバイタルサインの診方	全身状態、バイタルサインの診方を理解し、説明・実施できる。	
	13 循環器疾患における身体所見の診方	身体所見の確認および理学療法評価の意義・目的を理解し、説明・実施できる。	
	14 心電図の診方	正常な心電図および簡単な不整脈を理解し、説明できる。	
	15 心臓リハビリテーションの実際	心臓リハビリテーションの意義・目的を理解し、説明できる。	
授業形態	【呼吸】講義、実技 【循環】講義		
教科書	【呼吸】石川朗総編集:理学療法テキスト内部障害理学療法学 呼吸 第2版, 中山書店 【循環】医療情報科学研究所編:病気がみえるVol.2, 循環器, メディックメディア 石川朗総編集:理学療法テキスト内部障害理学療法学 循環・代謝, 中山書店 細田多穂監修:内部障害理学療法学テキスト, 南江堂		
参考書	【呼吸】配布資料あり 【循環】配布資料あり		
評価方法	【呼吸】期末試験50% 【循環】期末試験50%		
授業時間外の学習	【呼吸】授業前には呼吸器分野の疾患や解剖生理の復習、業後には復習を、1時間程度はすること。 【循環】授業前には循環器分野の疾患や解剖生理の復習、業後には復習を、1時間程度はすること。		
履修上の留意点	【呼吸】実技をおこないますので、適した服装を用意してください。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	義肢装具学				担当者	中村 敦子 嵯峨 守人 塩谷 絵梨			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	義肢、装具の種類と基本構造および使用目的を理解するとともに、それらの導入・指導についても学び概略を説明できる。 装具学:30時間, 義肢学:15時間		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 装具学 総論	装具とは、目的、装具の分類、装具処方の流れ、装具療法の際に留意すべきこと、適合判定について理解し説明できる。	中村 敦子
	2 下肢装具学 総論	装具の生体力学について理解し説明できる。 下肢装具の分類、構造について理解し説明できる。	
	3 下肢装具の構成部品の名称と継手の種類	下肢装具の部品、継手の種類と特徴を理解し説明できる。	
	4 短下肢装具、長下肢装具	短下肢装具・長下肢装具の種類や特徴、チェックポイント(適合・位置など)、採型時の注意について理解したうえで、歩行分析ができる(実習)。	
	5 股装具、膝装具、免荷装具、疾患別装具、体幹装具、靴型装具	種類、対象、目的、機能、チェックポイントについて理解し説明できる。	
	6 上肢装具	種類、目的、機能、適応について理解し説明できる。	塩谷 絵梨
	7 義足の種類と構造	義足の種類・構造を学び、切断後の患者に対し適切な義足の選択が出来る。	嵯峨 守人
	8 切断の原因と医学的処置について	切断に至る外傷や疾病を学び予防や医学的処置を説明することが出来る。	
	9 義足導入の実際と歩行について	代表的な義足の異常歩行を学び、その原因・対処方法を挙げることが出来る。	
10 義足運用に関わる理学療法士の役割	義足導入の実際を学び、禁忌も含めその指導方法やメンテナンスについても概略を説明出来る。 チーム医療にて義足導入が行われる昨今の流れの中で理学療法士がそれにどう関わるのかを説明できる。		
授業形態	講義, 実習		
教科書	日本整形外科学会監修;義肢装具のチェックポイント, 医学書院		
参考書	飛松好子編;装具学(第4版), 医歯薬出版株式会社 細田多穂監修:シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト, 南江堂		
評価方法	期末試験(100%)		
授業時間外の学習	0.5～1h程度の事前事後学習を要す。義足・装具装着下の異常歩行の理解のために簡単な力学的知識が必要となるので物理学の力学分野を復習しておくこと。		
履修上の留意点	名称、構造、チェックポイントを覚え、力学的な面からイメージできるようにしましょう。		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法士、作業療法士としての実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	中枢神経系障害理学療法治療学				担当者	深谷 真知子 嵯峨 守人			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	中枢神経系障害の疾患を理解する上で必要な解剖学・生理学・病理学を確認し、疾患の病態について理解を深める。脳血管障害の各損傷部位における症状・特徴から理学療法の評価を考え、脳機能障害のリハビリテーションについて学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 α - γ 連関	解剖学、生理学の観点から伸張反射、 α - γ 連関について説明できる。	嵯峨 守人
	2 大脳の機能局在および連合野	大脳の構造と機能について理解し、その機能局在について説明できる。 大脳の障害によって起こる症状について、機能局在と関連して説明できる。	嵯峨 守人
	3 脳循環	脳循環について、血管の名称・走行・灌流領域など理解し、説明できる。 障害によって起こる症状について説明できる。	嵯峨 守人
	4 中枢神経系の解剖と生理学的役割 および臨床症状との関連 症状に対応する理学療法評価	解剖学、生理学の観点から中枢神経系の機能および役割について説明でき、障害すると生じる機能障害・臨床症状と関連づけられる。また、症状に対する理学療法評価を確認できる。	深谷 真知子 嵯峨 守人
	5 脳機能障害とリハビリテーション	脳の可塑性について説明でき、脳損傷後の回復過程およびリハビリテーションについて学ぶ。片麻痺患者の姿勢、動作の特徴を体现できる。	深谷 真知子
	6 高次脳機能障害	高次脳機能障害患者の主な臨床症状とその対応について説明できる。代表的な検査に触れる。	深谷 真知子
授業形態	講義 発表 実技実習		
教科書	沼田憲治 編：脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ 脳血管障害を中心に、メジカルビュー社		
参考書	脳卒中理学療法の理論と技術 イラストによる中枢神経系の理解 リハビリテーションのための神経内科学 標準 脳神経外科学 その他、生理学・基礎運動学の教材など		
評価方法	深谷：期末試験（客観試験・論述試験）[100%] 嵯峨：期末試験（客観試験・論述試験）[80%]、レポート[10%]、口頭試問[10%]		
授業時間外の学習	1時間程度の事前事後学習を要す		
履修上の留意点	今までに学習した知識を各自整理しながら、発展できるように授業に臨むこと。また、課題発表においては、発表者は理解しやすい表現で工夫して発表するように臨む。		
担当者の実務経験	病院での理学療法士としての実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	臨床運動学				担当者	伊藤 剛 嵯峨 守人 藤部 百代 塩谷 絵梨			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	実習を通して運動学で学んだ知識を確認し理解を深める。生体の発する情報をありのままに捉えること、客観的データとの関係から捉えることを経験する。 また、発表等を通し自分の意見を他者に伝え、他者の意見を理解する能力を獲得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 オリエンテーション	授業の概要、個別課題、グループワークの進め方についての説明	伊藤 剛 嵯峨 守人 藤部 百代 塩谷 絵梨
	2,5 実習計画の立案	Ⅰ. 歩行 i) 自然歩行と努力歩行において、それぞれの左右の歩幅、重複歩、歩行速度、歩行率を求める。また、自然歩行での歩容を観察し、立脚相と遊脚相の歩行分析を運動学の知識をもとに観察する。ii) 三次元動作解析システムを使用して歩行分析を行う。 Ⅱ. 呼吸 i) 呼吸の観察、胸郭可動域の測定をすることにより、胸郭の動きを確認するとともに各個人における呼吸状態の違いを確認する。また重力や呼吸筋力の影響を考慮し、呼吸様式、胸郭拡張差などの立位と背臥位での違いについて考察する。ii) 呼気ガス分析装置を用いて得られる測定値について理解する。呼気ガス分析により得られるデータより、エネルギー代謝について理解する。安静時と運動時の換気、代謝の違いをみる。	伊藤 剛 嵯峨 守人
	3 Ⅰ. 歩行 i) 歩行分析(歩行速度、歩幅、歩効率など)		
	4 ii) 歩行分析(三次元動作解析システムを使用) 6 7 Ⅱ. 呼吸 i) 呼吸①(呼吸の観察、測定) ii) 呼吸②(呼気ガス分析)		
	8 実習計画の立案	Ⅲ. 上肢及び上肢帯 表面筋電図でS-H rhythmに関する筋活動を捉え、分析・考察する。 Ⅳ. 動作分析 椅子からの立ち上がり動作の動作分析を行い、分析および考察をする。座面の高さにおける椅子からの立ち上がり動作の動作分析を行い、分析をおよび考察をする。	藤部 百代 塩谷 絵梨
	9 Ⅲ. 上肢及び上肢帯 S-Hリズムに関する筋電図による筋出力計測 10 Ⅳ. 動作分析 立ち上がりの動作分析		
	11 発表準備	発表準備	伊藤 剛 嵯峨 守人
12 発表	割り当てられた課題について発表する。 実習で学んだ内容を発表し他者に理解させること、および、他者の発表を聞きその意図することを理解する能力を獲得する。	伊藤 剛 嵯峨 守人	
授業形態	実習、発表		
教科書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩 著:基礎運動学 第6版, 医歯薬出版株式会社 Donald A Neumann:筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版株式会社		
参考書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩 編:運動学実習 第3版 石川朗、種村留美、小島悟 編:15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 奈良勲、鎌倉矩子 監修:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学 内山 靖, 小林 武, 間瀬教史 著:計測法入門 他、臨床運動学の手引き参照		
評価方法	事前課題・授業態度(25%)、レポート(50%)、発表(25%)		
授業時間外の学習	一回の実習に際し、1.5～2時間程度の個人・グループでの事前事後学習を要す		
履修上の留意点	各個人で個別課題の項目を学習しノートにまとめる。 実習に適した服装で参加すること。(実習項目により異なる)		
担当者の実務経験	病院での理学療法士(伊藤・嵯峨)、作業療法士(藤部、塩谷)としての実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法評価学Ⅱ				担当者	伊藤 剛、川瀬翔太			
学 年	2	学 期	後期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	主な疾患、病態に対して理学療法を行う上で、必要となる基本的検査項目を学び、その意義も理解する。 主な疾患、病態に対して理学療法を行う上で、必要となる検査項目を挙げ、それを実施し、結果を考察して文章に表すことができる。 一通りの評価の流れ、症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 オリエンテーション 疼痛検査、意識レベル	評価の考え方について理解する。疼痛検査、意識レベルの評価について目的、方法を理解する。	川瀬 翔太
	2 運動麻痺とその評価	脳卒中の評価について目的、方法を理解する。 検査を実際に行い、実施できる。	川瀬 翔太
	3 姿勢反射、平衡反応、バランス検査	姿勢反射、平衡反応、バランス検査について目的、方法を理解する。検査を実際に行い、実施できる。	川瀬 翔太
	4 (画像検査、血液検査)	MRI、CTの仕組み、脳における評価について理解する。X-pの仕組み、四肢、脊柱の整形外科における評価について理解する。血液・生化学検査における各検査値の意味、意義、異常値について理解する。	川瀬 翔太
	5 内科疾患	腎不全、肝硬変、糖尿病について、疾患背景をふまえて評価項目、検査項目をあげることができ、その意義目的を理解する。	川瀬 翔太
	6 整形外科疾患	整形外科疾患に対する評価の流れ、意義目的について理解する。	川瀬 翔太
	7 神経難病、小児・頭部外傷	PD、ALS、SCDについて、疾患背景をふまえて評価項目をあげることができ、その意義目的について理解する。小児、頭部外傷についてに疾患背景をふまえて評価項目をあげることができ、その意義目的について理解する。	川瀬 翔太
	8 動作分析①(動作分析の進め方、姿勢分析、起居動作分析)	動作分析の目的、方法について理解する。 姿勢分析、起居動作分析を実際に行い、その方法を理解する。	伊藤 剛
	9 動作分析②(歩行分析の目的、方法、正常歩行の理解)	歩行分析の目的、方法について理解する。 正常歩行の特徴について理解する。	伊藤 剛
	10 動作分析③(症例動画を使用した歩行分析)	症例動画を見て、正常歩行との違いを理解する。 動画を用いての歩行分析を実際に行い、その方法を理解する。	伊藤 剛
	11 症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方	症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方を理解する。	川瀬 翔太
	12 ケーススタディ①	ペーパーペイシエントを利用し、症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方を理解する。(整形外科疾患症例)	川瀬 翔太
	13 ケーススタディ②	ペーパーペイシエントを利用し、症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方を理解する。(脳血管疾患症例)	川瀬 翔太
授業形態	講義、発表		
教科書	田崎義昭、斎藤佳雄:ベッドサイドの神経の診かた。南山堂 千田富義、高見彰淑:リハ実践テクニック 脳卒中。メジカルビュー社 百島祐貴:PT・OTのための画像診断マニュアル。医学教育出版社		
参考書	原寛美、吉尾雅春 編集:脳卒中理学療法の理論と技術。メジカルビュー社 細田多穂 監修:シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト。南江堂 石井慎一郎 編著:動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践。メジカルビュー社 理学療法評価学Ⅰで使用した教材		
評価方法	レポート(13%)、筆記試験(87%)		
授業時間外の学習	理学療法評価学Ⅰで学んだことの復習。各疾患学で学んだことの復習。		
履修上の留意点	講義の順番、担当講師については時間割にて確認すること		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	臨床運動学				担当者	藤部 百代 塩谷 絵梨 伊藤 剛 嵯峨 守人			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	実習を通して運動学で学んだ知識を確認し理解を深める。生体の発する情報をありのままに捉えること、客観的データとの関係から捉えることを経験する。 また、発表等を通し自分の意見を他者に伝え、他者の意見を理解する能力を獲得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 オリエンテーション	授業の概要、個別課題についての説明	藤部 塩谷 伊藤 嵯峨
	2,5 前半の実習計画の立案	Ⅲ. 上肢及び上肢帯 i) scapulothoracic rhythm(S-H rhythm)を触察・視察・計測し、比較・検討する。ii) 表面筋電図でS-H rhythmに関する筋活動を捉え、分析・考察する。 Ⅳ. 動作分析 i) 基本的な椅子からの立ち上がり動作の動作分析を行い、分析および考察をする。ii) 基本的な椅子からの立ち上がり動作とは異なる、座面の高さにおける椅子からの立ち上がり動作の動作分析を行い、分析をおよび考察をする。	藤部百代 塩谷絵梨
	3 Ⅲ. 上肢及び上肢帯 i) S-Hリズムに関する角度計測		
	4 ii) S-Hリズムに関する筋電図による筋出力計測		
	6 Ⅳ. 動作分析 i) 立ち上がりの動作分析① 7 ii) 立ち上がりの動作分析②		
	8 後半の実習計画の立案	Ⅰ. 歩行 自然歩行と努力歩行において、それぞれの左右の歩幅、重複歩、歩行速度、歩行率を求める。また、自然歩行での歩容を観察し、立脚相と遊脚相の歩行分析を運動学の知識をもとに観察する。 Ⅱ. 呼吸 呼吸ガス分析装置を用いて得られる測定値について理解する。呼吸ガス分析により得られるデータより、エネルギー代謝について理解する。安静時と運動時の換気、代謝の違いをみる。	伊藤剛 嵯峨守人
	9 Ⅰ. 歩行 歩行分析(歩行周期、歩行速度、歩幅など)		
	10 Ⅱ. 呼吸 呼吸(呼吸ガス分析)		
11 発表準備	割り当てられた課題について発表することができる。		
12 発表	割り当てられた課題について発表することができる。	藤部 塩谷	
授業形態	実習、発表		
教科書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩 著:基礎運動学 第6版 Donald A Neumann: 筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版株式会社		
参考書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩 編:運動学実習 第3版 石川朗、種村留美、小島悟 編:15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 奈良勲、鎌倉矩子 監修:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学 内山 靖, 小林 武, 間瀬教史 著:計測法入門 他、臨床運動学の手引き参照		
評価方法	事前課題・授業態度(25%)、レポート(50%)、発表(25%)		
授業時間外の学習	一回の実習に際し、1.5～2時間程度の個人・グループでの事前事後学習を要す		
履修上の留意点	各個人で個別課題の項目を学習しノートにまとめる。(オリエンテーション時に説明あり) 実習に適した服装で参加すること。(実習項目により異なる)		
担当者の実務経験	病院での理学療法士(伊藤・嵯峨)、作業療法士(藤部・塩谷)としての実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 中枢疾患Ⅱ				担当者	奥 登貴子 濱川 麻美 野口 真由 加藤 佳子			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	神経難病、神経筋疾患、脱髄性疾患に関する基礎知識を整理し、主な疾患の症状や障害および経過を理解する。 神経難病の障害に対する作業療法の目的と各病期における作業療法の介入方法を理解する。 脳血管障害における回復期リハビリテーションの基本項目、一連の流れを理解する。また、作業療法士の役割について理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 パーキンソン病の作業療法	パーキンソン病の病態と症状について説明できる パーキンソン病の障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる	奥・濱川
	2 脊髄小脳変性症の作業療法	脊髄小脳変性症の病態と症状について説明できる 脊髄小脳変性症の障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる	奥
	3 筋萎縮性側索硬化症の作業療法	筋萎縮性側索硬化症の病態と症状について説明できる 筋萎縮性側索硬化症の障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる	奥・濱川
	4 多発性硬化症の作業療法	多発性硬化症の病態と症状について説明できる 多発性硬化症の障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる	奥
	5 ギラン・バレー症候群の作業療法	ギラン・バレー症候群の病態と症状について説明できる ギラン・バレー症候群の障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる	奥 濱川
	6 筋ジストロフィーの作業療法	筋ジストロフィーの病態と症状について説明できる 筋ジストロフィーの障害像について説明できる 作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる	加藤
	7 回復期リハビリテーションについて	回復期リハビリテーションの概要、目的、特徴について説明できる。 回復期のOTの役割について説明できる。	野口
授業形態	講義・演習		
教科書	身体機能作業療法学第3版(医学書院) 病気が見える 脳・神経		
参考書			
評価方法	期末試験(筆記試験)・課題;奥 50点 期末試験(筆記試験);濱川 30点 レポート;野口 10点、加藤 10点		
授業時間外の学習	解剖学、生理学で学んだことを中心に、各疾患に関する事前学習を行うこと。授業後は配布資料や授業内容を元に復習や課題を行うこと。		
履修上の留意点	評価方法や課題について授業内でオリエンテーションを行うため、留意すること。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 整形疾患Ⅱ				担当者	横山 勝彦 稲垣 慶之 藤部 百代			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	脊髄損傷の病態と障害を理解し、疾患特性に応じた作業療法介入を理解する。 手外科領域における作業療法に必要な基礎知識を学ぶ。 熱傷に対する臨床像を理解し、作業療法の治療・指導・援助内容を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 脊髄損傷の病態	脊髄損傷に関わる病態・障害を理解し説明できる。	横山
	2 評価法	脊髄損傷に対する作業療法評価の実際を理解し説明できる。	横山
	3 治療・管理法	脊髄損傷や二次的合併症の治療・管理の実際を理解し説明できる。	横山
	4 各期別のリハビリテーションの流れ	臨床場面における各期別のリハビリテーションの流れを理解し説明できる。	横山
	5 脊髄損傷のADL	ADL評価法、残存機能レベル別ADLの到達目標について理解し説明できる。	横山
	6 手の機能解剖	ハンドセラピーにおける治療・評価に必要な機能解剖を理解する。	稲垣
	7 手外科領域における治療学	解剖学的知識を理解し、その上で評価・治療法について理解する。	稲垣
	8 スプリント療法 実際の臨床における治療	治療学の一方法としてのスプリントの基礎知識を理解する。 実際の臨床で行われている治療について学ぶ。	稲垣
	9 熱傷について	熱傷について症状・障害を説明することができる。	藤部
	10 熱傷のOTについて	適切な作業療法評価内容を説明することができる。 作業療法の目的、指導、援助内容、方法、手段について説明することができる。	藤部
授業形態	横山・藤部：講義・グループディスカッション、実技 稲垣：web上でスライドによる講義		
教科書	事前配布資料 身体機能作業療法学第3版,医学書院		
参考書	田中宏太佳・園田茂編：動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション. 医学書院 上羽康夫：手 その機能と解剖		
評価方法	期末試験（筆記試験）；横山 50点、稲垣 40点、藤部 10点 横山先生においては講義態度も加味する		
授業時間外の学習	横山：講義後は事前配布資料、参考書、講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと 稲垣：講義後は配布資料を元に1時間程度の復習を行うこと。 藤部：講義後は教科書や資料をもとに復習を行うこと。		
履修上の留意点	横山：上記の内容について解剖学、生理学、基礎運動学、作業療法評価法で学んだ内容を復習しておくこと。講義中の積極的な発言内容も評価対象とする。 稲垣：上記の内容について解剖学・基礎運動学で学んだ内容を復習しておくこと。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 精神障害Ⅱ				担当者	水野 準也 梅田 雄嗣			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 〔一般目標〕	精神疾患・障害特性に応じた精神科作業療法の治療・援助について理解する。 様々な治療・援助場面における精神科作業療法について理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 〔行動目標〕	担当者
	1 統合失調症	統合失調症の疫学、症状、病型、回復過程について理解し、説明することができる。 統合失調症の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	2 気分障害	気分障害(うつ病、双極性障害)の疫学、症状について理解し、説明することができる。 気分障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	3 神経症	神経症の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 神経症の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	4 パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 パーソナリティ障害に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	5 摂食障害	摂食障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 摂食障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	6 物質関連障害(アルコール使用障害を中心に)	アルコール使用障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 アルコール使用障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	7 知的障害	知的障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 知的障害に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	8 広汎性発達障害(自閉スペクトラム症を中心に)	広汎性発達障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 広汎性発達障害に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田
	9 入院から地域移行における作業療法	入院から地域移行における流れの中で、社会資源をふまえて作業療法の支援内容について理解し、説明することができる。	水野
	10 デイケアにおける作業療法	デイケアの機能・役割を学び、デイケアにおける作業療法士の支援内容について理解し、説明することができる。	水野
11 医療観察法における作業療法	医療観察法の流れや多職種連携をふまえて、医療観察法における作業療法の目的や治療について理解し、説明することができる。	水野	
授業形態	講義形式		
教科書	山根 寛：精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 新版(三輪書店) 富岡 詔子・小林 正義：作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害(協同医学出版社)		
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版 (医学書院) 精神医学Ⅰの講義プリント		
評価方法	期末試験(筆記試験)：水野 40点、梅田 60点		
授業時間外の学習	精神医学で学んだ内容を中心に疾患に関する事前学習を30分程度行い、授業後は配布資料や授業内容を元に30分程度の復習を行うこと。		
履修上の留意点	精神医学で学んだ知識が基礎となることを念頭に授業に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学内部疾患Ⅰ				担当者	興 登貴子			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	代謝異常(糖尿病)、循環器疾患に関する基礎知識を整理し、主な疾患の症状や障害および経過を理解する。 代謝異常(糖尿病)、循環器疾患の対象者に対する作業療法の目標と介入方法を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 代謝異常に関する基礎知識の整理	栄養素の消化・吸収及び代謝の仕組みについて説明できる 糖代謝の仕組みとその異常について説明できる	興
	2 糖尿病について	糖尿病の病態と障害について説明できる	興
	3 糖尿病の対象者に対する作業療法	糖尿病の対象者に対する作業療法の目標、評価、プログラムを説明できる。	興
	4 循環器に関する基礎知識の整理	循環器の構造と機能を説明できる	興
	5 循環器疾患について	循環器疾患の病態と障害について説明できる	興
	6 循環器疾患の対象者に対する作業療法	循環器疾患の対象者に対する作業療法の目標、評価、プログラムを説明できる。	興
授業形態	講義、グループワーク		
教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学第3版(医学書院) 病気がみえる 循環器(メディックメディア)		
参考書	解剖学・生理学の教科書及び授業資料		
評価方法	期末試験(筆記試験)・課題; 100点		
授業時間外の学習	解剖学, 生理学で学んだことを中心に、各疾患に関する事前学習を行うこと。授業後は配布資料や授業内容を元に復習や課題を行うこと。		
履修上の留意点	評価方法や課題について授業内でオリエンテーションを行うため、留意すること。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	義肢装具学 演習				担当者	奥村 修也 塩谷 絵梨 嵯峨 守人			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	装具の基本構造と目的を理解し、障害に対する適応を考える。 手の治療に使用するスプリント(装具・副子)を作製する。 スプリント作製の手順を理解し、身につけることはもちろんであるが、スプリントを使用する適応や目的についても学習を深め、手の機能や疾患・障がいの見識を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 装具の概念	装具とスプリントの比較して説明することができる。	塩谷
	2 リハビリテーション医療と装具・スプリント	古代～現代までの装具の歴史を説明することができる。	塩谷
	3 装具の分類と種類、代表的な上肢装具	装具の分類を説明することができる。	塩谷
	4 装具・スプリント製作のながれ	装具製作の流れ、スプリント製作の流れを説明することができる。	塩谷
	5 装具・スプリント作製についてのポイント	上肢装具の原則、留意点、製作上の注意事項を説明することができる。	塩谷
	6 疾患別主要装具・スプリント	疾患別(末梢神経損傷、関節リウマチ、脳血管疾患、脊髄損傷、熱傷、腱断裂、骨折、体幹固定装具)などの主要装具の目的や適性を理解することができる	塩谷
	7 下肢装具・歩行補助具	下肢装具の種類、対象、目的、構造、機能、使用時の注意点について説明できる。 歩行補助具の役割について説明できる。	嵯峨
	8 臨床におけるスプリント療法	臨床でのスプリント療法およびスプリント導入の基礎的な考え方(疾患・障害・目的・スプリントの種類)を理解する。	奥村
	9 基礎的なスプリント作製技術の導入(実演・実技)	基本的なスプリント作製方法、特に直接法(ピンチ法・ドレープ法)の作製上の要点を理解する。	奥村
	10 スプリント作製(実習)	直接法によるスプリント作製を実際に行ない、作製上の要点を説明できる。	奥村
	11 スプリントの評価	作製したスプリントが機能的か、目的達成できているかなど、スプリントの基本的なチェック・ポイントを理解する。	奥村
12 スプリントの評価効果適応についての考察	作製したスプリントを実際装着して、どのような効果があるのかを体験し理解する。	奥村	
授業形態	講義および実技		
教科書	手のスプリントのすべて,三輪書店 義肢装具と作業療法 評価から実践まで,医歯薬出版株式会社		
参考書	義肢装具のチェックポイント(医学書院) リハビリテーション 義肢装具学(メジカルビュー) リハ実践テクニック ハンドセラピー(齋藤慶一郎編・メジカルビュー社)		
評価方法	期末試験(筆記試験);塩谷 30点、嵯峨 15点 レポート;奥村 55点		
授業時間外の学習	奥村:義肢装具学の座学で学んだ基本的事項を復習しておくこと。		
履修上の留意点	塩谷・嵯峨:評価方法や課題について授業内でオリエンテーションを行うため、留意すること。 奥村:手の基本的な疾患(末梢神経麻痺・骨折など)と表面解剖・解剖・運動学を復習しておくこと。		
担当者の実務経験	塩谷:病院で身体障害領域の作業療法に従事 嵯峨:病院で理学療法に従事 奥村:病院で身体障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業療法評価学 精神障害				担当者	藤井 雅裕 水野 準也			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	精神科作業療法の評価について学ぶ。 日本の精神医療、作業療法の歴史を振り返ることで医療者に必要な基本的姿勢を確認し、症例資料を通して作業療法開始時から初期評価までの過程を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 戦後日本の精神医療及び作業療法の歴史と精神医療に従事する者に必要な心構え	戦後日本の精神医療の隔離収容の背景と、その中で作業療法の名の下にどういことがなされ、作業療法はどう見られてきたのか、そして今後、どういことが精神医療や作業療法に必要なのか考える。	藤井
	2 主に統合失調症者に対する場合の基本的留意事項について	私たち作業療法士が対象とする機会の多い統合失調症者を中心に治療者としての心構えや治療への留意点を臨床に則して紹介し学ぶ。	藤井
	3 2症例を提示し、その経過を通して初期評価を立案する。	2症例のプロフィールと初期の経過から作業療法初期評価をグループワークを通して立案し、発表する。	藤井
	4 精神科OTにおける評価総論	精神科OTの評価の目的・意義、基本的な流れについて説明することができる。 評価項目について理解し、説明することができる。	水野
	5 情報収集	情報収集(他部門、カルテなど)の方法とその内容、留意点について理解し、説明することができる。	水野
	6 面接	作業療法評価学ⅠおよびⅡで学んだことを踏まえ、面接の構造・形態、面接の種類・留意点について復習することができる。 精神科OTにおける面接の現状や留意点について理解し、説明することができる。 作業面接(構成的・投影的)の方法と特徴を理解し、説明することができる。	水野
	7 観察	作業療法評価学ⅠおよびⅡで学んだことを踏まえ、観察の構造・形態について復習することができる。 精神科OTにおける観察について、日常生活や集団内での観察のポイントについて理解し、説明することができる。	水野
	8 検査・調査	精神科OTに関連する検査・調査を理解し、説明することができる。	水野
9 ICF	ICFについて、各項目の内容、作成方法について理解することができる。また、モデルケースでICF作成することができる。	水野	
授業形態	講義、グループワーク、グループ発表		
教科書	山根 寛 精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 新版(三輪書店) 富岡 詔子・小林 正義 作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害(協同医書出版社)		
参考書	必要な文献等は講義時に配布する。		
評価方法	期末試験(筆記試験);水野 60点 レポート;藤井 40点		
授業時間外の学習	藤井: 特にはありませんが、授業内で紹介した書籍など興味のある方は読んで下さい。 水野: 授業前には基礎となる作業療法評価学Ⅰ・Ⅱの復習をしておくこと。 また、授業後は配布資料や授業内容を元に1時間程度の復習を行うこと。		
履修上の留意点	水野: この授業を基礎として、作業治療学演習Ⅰ・Ⅱが展開されることを念頭に置いて学習すること。		
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業療法評価学 発達障害				担当者	加賀谷 繁 井出 芳恵 渡邊 朱美 松原 健			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	正常運動発達におけるその過程を知り、理解を深める。人の姿勢や運動のに関する観察や評価の視点を学ぶ。 正常発達について知識を身につけ理解を深め、発達領域での発達の特徴と評価を理解する。 自閉症スペクトラム障害を中心に、発達障害のお子さんの状態像、評価方法を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 発達の原則に基づいた姿勢・運動の理解	発達の原則の確認とその原則に基づく姿勢や運動の発達経過を体験やグループワークを通じて理解を深める。	加賀谷
	2 姿勢・運動機能面からみた正常運動発達を理解する	正常な運動発達過程を理解し、姿勢や運動の成立要素をグループワークを通じて理解を深める。	加賀谷
	3 発達障害における評価について	作業療法評価について(目的、手順)を理解する。	井出
	4 発達障害における評価について	評価(姿勢反射)について理解する。	井出
	5 発達障害における評価について	評価(発達検査)について理解する。	井出
	6 発達障害における評価について	評価(発達検査)について理解する。	井出
	7 発達障害における評価について	評価(観察のポイント)について理解する。	松原
	8 発達障害とは	発達障害の定義を理解する。	渡邊
	9 発達障害に関する評価方法	評価の意味および、各種評価法について理解する。	渡邊
	10 行動観察について	行動観察を理解する。	渡邊
	11 感覚統合評価について	感覚統合評価の基礎的な内容を理解する。	渡邊
	12 面接について	面接において得られる情報を評価の一部として把握することができるようになる。	渡邊
	13 原因分析について	様々な評価結果が問題点の原因に繋がることを理解する。	渡邊
授業形態	講義・グループワーク、グループ発表、演習		
教科書	岩崎テル子他編 標準作業療法学 作業療法評価学 配布資料		
参考書	岩崎清隆、岸本光夫著：発達障害と作業療法[基礎編]・[実践編]，三輪書店		
評価方法	期末試験（筆記試験）：渡邊 20点、松原 15点 レポート・発表：加賀谷 30点、レポート：井出 35点		
授業時間外の学習	加賀谷：配布資料や人間発達学などの教科書等で、正常運動発達に関する項目を確認し、発表担当の月齢部分をまとめる。 渡邊：講義後は講義内容を元に1時間程度の復習を行うこと。		
履修上の留意点	加賀谷：人間発達学・運動学・解剖学・発達障害関係の授業内容を十分復習しておくこと。 渡邊：発達障害の定義等基礎的なことについて、事前に学習しておくこと。		
担当者の実務経験	病院で発達障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	日常生活活動 演習				担当者	藤部 百代 兼松 美圭			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	日常生活活動の障害に対する介助法や評価法を体験し、各特徴を理解し説明することができる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 脳血管疾患患者の日常生活活動	脳血管疾患患者におけるリスク管理、各動作の基礎としてのリーチ・バランス能力、食事動作、整容動作、更衣動作、排泄動作、入浴動作、家事動作について体験し、各特徴を理解し説明することができる。	藤部
	2 脊髄損傷患者の日常生活活動	脊髄損傷患者におけるリスク管理、二次合併症の治療・管理、疾患の特徴、基本動作、レベル別の特徴、動作方法、ポイントや声掛け、日常生活動作について体験し、各特徴を理解し説明することができる。	藤部
	3 自助具の選択	自助具を理解し、適切な処方を行うことができる。	藤部
	4 ADL評価	FIMとBIIについて理解して適切に評価を行うことができる。	藤部
	5 片麻痺患者の起居動作について(演習)	起居動作とは何かを理解した上で、正常動作を分析し、説明することができる。その上で、介助ポイントを押さえて実際に介助を行うことができる。	兼松
	6 片麻痺患者の移乗動作について(演習)	片麻痺患者のベッド・車椅子間の移乗動作(全介助)の自分自身の身体の使い方、リスク管理について学び、実際に行うことができる。	兼松
	7 片麻痺患者の坐位とシーティングについて(演習)	片麻痺患者の坐位肢位について学び、シーティングの定義、目的、評価の視点を理解した上で、適切なシーティングについて実際に行うことができる。	兼松
	8 実技演習(片麻痺、円背)	ポジショニングの定義、目的、評価の視点を学び、実際に行うことができる。 片麻痺の起き上がり、杖歩行、階段昇降を動作分析し、説明することができる。	兼松
授業形態	講義および実技、グループワーク、発表		
教科書	新版 日常生活活動(ADL)―評価と支援の実際―,医歯薬出版株式会社 実戦機能評価シリーズ 脳卒中の機能評価―SIASとFIM(基礎編),金原出版社		
参考書	動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析 姿勢から介入する摂食・嚥下		
評価方法	筆記試験;藤部 60点 レポート;兼松 10点 、 藤部 30点		
授業時間外の学習	実技に関しては、講義後に復習を行うこと。 前期日常生活活動の講義の復習と講義後の知識の整理。		
履修上の留意点	脳血管障害、脊髄損傷の病態について復習を行うこと。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	地域作業療法学				担当者	水野 準也			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	地域リハビリテーションの理念とシステムおよび地域における作業療法について学ぶ。また、対象者が地域で生活する上で必要な制度や施策といった基本的知識を習得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 地域の捉え方・考え方	地域という言葉の意味について理解することができる。	水野
	2 地域リハビリテーションについて	地域リハビリテーションについて理解することができる。 ノーマライゼーションの歴史や理念について理解することができる。 地域作業療法について理解することができる。	興 水野
	3 地域作業療法を支える制度・施策について	社会保障制度や介護保険制度、障害者総合支援法に関する概要や関連事項について、講義やグループワーク・発表を通して理解することができる。	水野
	4 社会生活支援の理解について	ニーズの意味や捉え方を地域リハビリテーションについて理解することができる。 ソーシャルネットワークサポートについて理解することができる。	興 水野
	5 多職種の連携と協業について	地域における多職種の連携について理解することができる。 作業療法士と連携する職種の業務について理解することができる。	水野
	6 地域作業療法の評価の視点について	地域作業療法の評価について、生活構造・地域環境・住環境の視点で理解することができる。	水野
	7 地域作業療法における支援プログラムとマネジメントについて	地域作業療法における個別および集団支援プログラムについて理解することができる。 生活行為向上マネジメントについて理解することができる。	興 水野
授業形態	講義、グループワーク、発表		
教科書	標準作業療法学 地域作業療法学第3版(医学書院)		
参考書	新版 日常生活活動(ADL)—評価と支援の実際— 医歯薬出版株式会社		
評価方法	期末試験(筆記試験);興 25点 水野 55点 レジュメ;20点		
授業時間外の学習	授業後は配布資料や授業内容を元に1時間程度の復習や課題を行うこと。また、授業時間外でのグループ課題については計画的、主体的に進めること。		
履修上の留意点	評価方法や課題について授業内でオリエンテーションを行うため、留意すること。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 演習 I				担当者	水野 準也 塩谷絵梨			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体障害分野および精神障害分野の作業療法における初期評価の流れを理解する。また、ICFに基づいて対象者の全体像を把握するとともに、作業療法の実施計画を作成するための手順を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 身体障害分野 評価計画立案について	初期評価の流れを説明することができる。 情報収集の内容と方法を説明することができる。 検査・測定項目を挙げ、各々の目的を説明することができる。 評価の実施手順を説明することができる。	塩谷
	2 身体障害分野 評価結果の分析と考察	評価結果をICFに基づいて整理することができる。 評価結果の統合と解釈、対象者の全体像の焦点化について理解することができる。	塩谷
	3 身体障害分野 目標設定	目標設定の方法と設定に必要な要素について理解することができる。	塩谷
	4 精神障害分野 評価計画立案について	評価計画立案の際に必要な評価項目を列挙し、評価手段について想定することができる。	水野
	5 精神障害分野 統合と解釈、焦点化、目標設定 治療計画立案について	統合と解釈や焦点化について、位置づけと意義、目的について理解することができる。 目標設定について目標設定時の原則、期間などについて理解することができる。 治療計画について治療計画の項目とその治療構造(作業、OTRの関わり方、集団、場所、時間・頻度・期間)を理解することができる。	水野
	6 精神障害分野 初期評価レポートに書き方について	全体的なレポートの流れをはじめ、統合と解釈、焦点化、目標設定、治療計画を中心に、初期評価レポートの書き方について学ぶことができる。	水野
	7 精神障害分野 症例検討および発表	模擬症例について、情報収集～ICF、焦点化、目標設定、治療計画立案をグループワークで行い、発表することができる。	水野
	8 精神障害分野 個人課題に対するフィードバック	症例検討したことについて、統合と解釈、焦点化、目標設定をレポートとして作成することができる。また、フィードバックを受け、修正することができる。	水野
授業形態	講義、グループワーク、発表		
教科書	身体障害:標準作業療法学 身体機能作業療法学、作業療法評価学、(医学書院) 精神障害:精神障害と作業療法、作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害		
参考書	精神障害:標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学		
評価方法	身体障害:レポート、発表;45点 精神障害:レポート、発表;55点		
授業時間外の学習	身体障害:既習の関連科目の教科書やノートで事前学習を行い、授業後は授業内容のまとめや課題を行うこと。 精神障害:既習の関連科目で使用したプリントに目を通すなど30分程度の事前学習を行い、授業後は配布資料や授業内容を元に1時間程度の復習や課題を行うこと。		
履修上の留意点	身体障害:作業療法評価学、作業治療学中枢疾患Ⅰなどで学習した内容に基づき演習を展開する。臨床実習を想定して臨むこと。 精神障害:今まで学習した精神障害分野の科目、特に作業療法評価学精神障害や作業治療学演習Ⅱを踏まえて、授業を展開していることを念頭に取り組むこと。臨床実習を想定して臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域および精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 演習Ⅱ				担当者	奥 登貴子 水野 準也 梅田 雄嗣 塩谷 絵梨			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体障害および精神障害における評価および介助技術について、演習を通して習得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 検査・測定計画の作成	対象者(模擬患者)に対し、適切な検査・測定計画を作成することができる	塩谷
	2 検査・測定の実施	対象者(模擬患者)に対し、検査・測定の内容、目的、結果について説明することができる。 対象者(模擬患者)に対し、適切な方法で検査・測定を実施することができる。	奥 塩谷
	3 検査・測定結果の記録と考察	検査・測定結果を適切に記録し、考察することができる。	塩谷
	4 作業場面の観察体験	設定された模擬的な作業場面(パラレルOT)における参与観察を、観察者(評価者)および対象者の両者の立場で体験する。作業場面の観察を通して、目の前に起こっている現象を客観的に捉え、それをもとに考察することができる。	水野
	5 模擬患者との面接体験	模擬患者に対し面接を実施し、精神障害者に対する面接を体験することができる。 面接内容を、会話録として記録することができる。	水野 梅田
	6 作業面接	構成的および投影的作業を用いた作業面接実施することができる。 評価者として実施した作業面接について所定の形式に則って記録し、考察することができる。	水野
授業形態	講義、グループワーク、発表、実技		
教科書	身体障害:標準作業療法学作業療法評価学・身体機能作業療法学、ベッドサイドの神経の診かた 精神障害:精神障害と作業療法、作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害		
参考書	精神障害:標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学		
評価方法	身体障害:レポート、実技テスト;55点 精神障害:レポート;45点		
授業時間外の学習	身体障害:既習の関連科目の教科書やノートを用いた事前学習及び実技練習を行い、授業後は授業内容をまとめや実技の振り返り及び課題を行うこと。 精神障害:既習の関連科目で使用したプリントに目を通すなど30分程度の事前学習を行い、演習後は配布資料や教科書をもとに課題に取り組むこと。		
履修上の留意点	身体障害:実技演習時は臨床実習時と同様の服装、身だしなみとする。 精神障害:作業療法評価学Ⅱや作業療法評価学精神障害を踏まえて授業を展開していることを念頭に取り組むこと。また、臨床実習を想定して、各演習に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域および精神障害領域の作業療法に従事		